

令和4年度 第1回がまごおり協働まちづくり会議議事要旨

日 時 令和4年5月23日(月) 午後2時～
蒲郡市役所 北棟集会室

1 開会

事務局より、配布資料の確認
会長より、第4回議事録の承認

2 議題

(1) 蒲郡市市民企画公募まちづくり事業助成金について

事務局より、令和3年度実績報告会・令和4年度はじめの一步部門応募状況等・令和4年度活動ステップアップ部門再募集について説明

○実績報告会について

- ・小江まちの活動が中央ファームに広がったことはありがたい。
コミュニティスクールの取組みが進んでいるが、例えば、支援員から学校で畑づくりをやりたいと動いても始まらないため、市民活動として団体が学校に入り、そこから広がっていく動きは良いと感じている。
- ・どの団体も頑張っており取り組んでいることが分かった。
意見交換会では、今までにない出会いがあり有意義であった。
- ・参加者に顔見知りが多く、新しい人がもっといてほしい。
初めての人が参加できる工夫が必要だと思う。
- ・活動がまだまだ知られていないので、もっと活性化できるように検討を。
学校での活動は、小学生の意見も聞けると良いと思う。
- ・中央ファームの活動では、まだ、小学生との交流があまりできていない。
中央小学校には、子どもを見守る活動があるため、連携していきたいと考えている。
- ・新しいつながりができたことは良かったと思う。実績報告会をもっと広く知ってもらえるように、どういう方法が良いか検討してほしい。
- ・他の団体とのつながりをどのように行うか、誰が行うかが課題だと感じている。時間も体力も必要なことなので、進まない面もある。
- ・他の団体の横の動きを意識できる展開は大事だと思う。
新たな動きを作るには、事例の情報交換など、先輩のチャレンジを見てもらえる機会が必要だと感じている。
- ・広報等既存の周知だけでなく、取組みをどう周知していくかが大事。

(2) 蒲郡市まちづくり活動チャレンジ助成金について

事務局より、蒲郡市まちづくり活動チャレンジ助成金交付要綱・今後のスケジュールについて説明

- ・広報活動が大事。
自分ならどこに宣伝できるか考えてみたが、個々のつながりの中で個別

に周知できるとよい。

- ・現助成金と違い継続性は求めない点とのことだが、継続など将来的な展開を考えた事業にはプラスの審査をしてほしい。
- ・緩やかにすき間時間を使った活動などが広がるとよい。
- ・若者議会の事業実施においても利用が検討できる。
- ・若者は広報等を見ないのではないか。個別のアプローチが必要。
- ・若い世代のママたちのボランティアサークルなど、頑張っている人たちもいる。児童館や子育て支援センターの館長さんを通して周知する方法もよいかもかもしれない。
- ・市の助成金は申請書が多いなど、ハードルが高いイメージがある。また、対象経費の基準が厳しい面など利用しづらいと感じている。
- ・対象経費の基準について、大事な点は、もう少し使いやすくしようとする際に、杓子定規ではなく検証していくこと。

(3) 令和4年度協働モデル事業について

事務局より、令和4年度協働モデル事業「若者支援協働モデル事業」「がまごおり地域猫活動協働モデル事業」「蒲郡若者議会活動協働モデル事業」について説明

○若者支援協働モデル事業について

- ・動画制作等の取組みを子どもたちへ展開できるとよいと思っている。プロセスの中に子どもたちを巻き込めるとよいが、学校で報告会を行うなど取組みを見せるだけでもよいので。
- ・協働のまちづくりを映像にしてもらうことはできないか。
- ・何を目的に映像制作し発信するのかを見失わないようにしてほしい。
- ・映像に学生の思いを乗せられるように進めること、また、関わった人たちがいいねと思えるものとなることが求められる。

○がまごおり地域猫活動協働モデル事業について

- ・地域とあるが、常会とか地縁組織での取組みは難しい。個々に活動している人はいると思うが。
- ・地域猫活動は、必要だと感じた人たちが動き広がっているが、まだ関係者が少ない。単身世帯の高齢者が飼っている猫の問題などは福祉課題にもつながる。
- ・地域猫活動は市によって温度差があるが、土壌づくり的にモデル事業をやっていくイメージか。
- ・捕獲機は地域に1個あると助かる。
- ・子猫捕獲後の譲渡先にも課題がある。

○蒲郡若者議会活動協働モデル事業について

- ・モデル事業では、関係者を増やし、政策実現を目指してやっていく。
- ・若者が頭で考えるだけでなく、考えたことをやってみてほしい。

(4) 協働まちづくり指針策定ワーキングについて

事務局より、ワーキングの進捗状況について報告
指針案については、次回ワーキング前に協働まちづくり会議委員へ展開し、意見集約をする。

- ・DX（デジタルトランスフォーメーション）の視点も必要ではないか。
- ・みんなでというのは、「みんなができることの中からできることをできるだけ」ということ。
「10分からできるまちづくり」のような分かりやすさも必要。
- ・ボランティアをやる人は決まっていて、なかなか増えていかない。
例えば、習い事はするが、主体的に動くことはしないなど。
そういった意識を変えることに対するアプローチがあるとよい。
- ・「女性」というキーワードがあるが、「子育て世代」でもよいのでは。
- ・同じ目的を共有し、生み出す楽しさが人を動かすので、問いかけが沢山あるとよい。
- ・行政でも、各セクションで個々で動いており横のつながりができていないと参加する側からは感じる。内部での横連携について、しっかり進めてほしい。

3 その他

次回開催時期について

第2回は令和4年8月1日（月）午後2時からの開催を予定